

平成27年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT27055 天然記念物ミヤコタナゴの生命を育む里地里山を旅しよう



開催日：平成27年9月19日(土)

実施機関：宇都宮大学

(実施場所) (教育学部峰キャンパス)

実施代表者：上田 高嘉

(所属・職名) (教育学部・教授)

受講生：高校生40名

関連URL：<http://ks002.edu.utsunomiya-u.ac.jp/>

本プログラムは、私たちの一日の講座を通して、ミヤコタナゴの生命を育ててきた里地里山について理解し、人間と自然の共存の在り方について共に考えることを目的とした。講義Ⅰではタナゴ類の生活史、遺伝様式等の生物学的特徴について学習し、ミヤコタナゴがどこから来て、今どこにいて、そしてどこへ行こうとしているのか共に考えた。講義Ⅱでは人工授精法の説明や染色体標本の作製方法について概説を行った。実験・実習では人工授精、染色体標本の作製や顕微鏡観察を通して受精現象、細胞分裂、染色体およびDNAの構造等の理解を図った。野外実習では羽田ミヤコタナゴ生息地の見学を通してタナゴ類の生息環境、生態系について考えるとともに地元保存会の方々との交流会を実施した。

【当日のスケジュール】

9:00～ 受付(峰キャンパス集合)

9:30～ 開講式(挨拶、オリエンテーション、科研費の説明)

9:45～10:30 講義Ⅰ タナゴ類の生活史、遺伝様式等の生物学的特徴(講師:上田 高嘉)

10:45～11:00 講義Ⅱ 人工授精法の説明や染色体標本の作製方法(講師:上田 高嘉)

11:15～12:30 人工授精の体験、染色体標本の作製、顕微鏡観察

12:30～13:30 懇談を兼ねた昼食会

13:30～15:00 借り上げバスにより、ミヤコタナゴ生息地へ

15:00～16:00 羽田ミヤコタナゴ生息地、滝岡ミヤコタナゴ保護池の見学および地元保存会の方との交流

16:00～16:30 終了式(受講生によるアンケート記入、未来博士号の授与)

16:30～18:00 借り上げバスにより、峰キャンパスへ

18:00 解散

<実施の様子>



染色体標本の観察



羽田ミヤコタナゴ生息地保護区



保存会の方々との交流会(滝岡保護池)

<工夫した点>

・本学部を卒業した高校教員と事前に打合せを行い、受講生に合わせた実施プログラムの設定や開催日程などについて検討した。

・受講生に分かりやすい講義資料を作成することで、タナゴ類の遺伝様式を含めた生物学的特徴や人工授精法、染色体標本の作製方法についての理解を補った。

・大学内での実験だけではなく、ミヤコタナゴの生息地(羽田ミヤコタナゴ生息地保護区)を訪ね、地元保存会の方々との交流会を実施した。

・事務局との協力体制

財務部経理課が委託費の管理を行い、学術研究部研究協力・産学連携課が支出報告書の確認、振興会への連絡調整と提出書類の確認・修正などを行った。

・広報活動

実施者、広報委員が分担し、県内の高等学校を訪問し、本事業について PR を行った。栃木県ミヤコタナゴ保全研究会で発行している「ミヤコタナゴ研究会だより」に募集案内の掲載を行った。本学を卒業した高校教員に周知を依頼した。

・安全配慮

実験を行う際の安全確保のため、必要に応じて白衣を着用させた。野外観察を実施するため、受講生および実施協力者を保険に加入させた。プログラムの終了が 18 時であったことから、参加希望者にはあらかじめ保護者の同意を得た。実験および野外観察では受講生の安全確保のため、大学院生が TA を行った。

・今後の発展性、課題

今回の講座に対して受講生および見学者に高い関心と興味をもっていただいたことから、このような講座を今後も可能な限り開催することが求められているように感じた。講座の中で実験・実習を組み合わせることは当研究室が行っている研究を理解してもらうためにも大変意味のあるものとなったように思う。生徒および見学者の要望等を十分に考慮して1回の講座の連日開催等も視野に入れて検討していく必要があるだろう。参加者のアンケートにもあったように夏休みや冬休みなどの開催も検討し、学校行事などを考慮した上で日程を決めることが必要であると考えた。

【実施分担者】

特になし。

【実施協力者】 \_\_\_\_ 2 名

【事務担当者】 宗玄 力也 学術研究部研究協力・産学連携課 研究協力係長